

小山市事務事業評価シート

令和3年度版

No. 5

1. 基本情報										3. Check - 評価 -									
<1> 事業・業務名		オーストラリア・ケアンズ市友好都市交流事業（中学生派遣事業）				<2> 事業・業務の別		事業		実績評価		妥当性		<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1. 妥当である			
<3> 選定基準		① 廃止・縮小等の評価も含めた市民目線からの再検証が必要と思われる事業・業務				<4> 継続業務・新規業務の別		継続業務						<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		2. 検討を要する			
<5> 総合計画基本計画での体系		大項目		1 協働によるまちづくりと 誰もが活躍できる社会・ひとづくり		<6> 担当部(局)		市民生活部						<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2. 変わらずにある			
		中項目		1-2 心ふれあうコミュニティと多文化共生・国際交流		<7> 担当所属		国際政策課						<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1. 妥当である			
		小項目		1-2-2 多文化共生・国際交流		<8> 担当係等		交流推進係		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		2. 向上の余地はない							
		施策		国際交流・国際協力への市民の参加促進						<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいか？		1. 大きい							
<9> 根拠法令・計画等						<10> 関連・類似事業		紹興市中学生派遣事業				効率性		<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1. 向上の余地はある			
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		2 款 1 項 1 目		公平性		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1. 検討可能である					
<13> 実施期間		年度 ~ 年度		<14> 全体事業費		千円				<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		2. 検討を要する							
<15> 実施手法		一部委託		「その他」の場合 ()						<33> 総合評価		2. 改善の余地はある		理由 参加者の負担金について他自治体と比較し検討の余地があると考えられるため、改善の余地ありとした。					
2. Do - 実施 -																4. Action - 改善 -			
<16> 事業・業務の概要		公募により選考された市内中学生を姉妹都市であるオーストラリア・ケアンズに派遣し、交流を図る。								事業の改善		<34> 事業の課題 事業の改善点		事業の実施(再開)は、新型コロナウイルス収束後安全に生徒が渡航可能となった場合となるが、現時点で再開時期は不透明である。県内他自治体の動向を考慮し、再開について判断していくのが課題となっている。前回課題となっていた、ホームステイ先の確保に関しては、令和2年12月にケアンズステイトハイスクールと盟約更新し今後は、EQI(クイーンズランド州教育省)を通じたスタディツアーとして、中学生を派遣することとした。結果として、旅行会社が生徒のホームステイ先を手配することとなった。また、派遣人数について従来の28名から、選考試験により①市内各中学校(11校)からの成績最上位者1名と①以外で選考試験成績上位11名の合計22名とした。					
目的		<17> 事業・業務の目的		姉妹都市との交流を通して友好を深め、グローバル化する国際社会に対応できるように、学生の国際感覚を養うとともに、英語によるコミュニケーション力の強化、異文化に接することによる外国文化への興味・理解を促進する。															
		<18> 事業・業務の対象		国際交流に関心がある市内中学3年生及び義務教育学校9年生 22名															
手段		<19> 令和2年度の活動内容		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止															
		<20> 活動指標(活動した量や実績)		指標名		単位		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度					
				参加人数		人		計画 28 実績 28		計画 0 実績 0		計画 0 実績 22							
成果		<21> 事業・業務の成果		現地での生活を通して、国際交流に積極的な姿勢を示す学生を増やす。						事業の方向性		<35> 1次評価		所属長		2. 変更		理由 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年連続で派遣は中止となったが、国際性豊かな人材の育成、多文化共生社会への意識の向上、さらには姉妹都市との交流促進などに資することから、渡航が可能になった際は、派遣を再開することが妥当と考える。しかし、派遣人数を減らすことになったことに加え、負担金についても県内他市の状況を参考に、見直しの必要があると考える。	
		<22> 成果指標(活動の成果の量や実績)		指標名		単位		令和元年度											
				報告書で「今後も積極的に英語を学びたい」等の肯定的感想を持った生徒数		人		計画 28 実績 28		計画 0 実績 0		計画 0 実績 22							
資源		<23> 投入指標(投入するお金の量)		コスト実績		単位		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度					
						千円		計画(予算) 8,854 実績(決算) 8,554		計画(予算) 0 実績(決算) 0		計画(予算) 0 実績(決算) 0		計画(予算) 8,966					
				事業費等		千円		5,300 5,000		0 0		0 0		5,400					
				財源内訳		千円													
				国・県補助金		千円													
				地方債		千円													
				その他		千円													
				一般財源		千円		5,300 5,000		0 0		0 0		5,400					
				人件費		千円		3,554 3,554		0 0		0 0		3,566					
				正職員		千円 × 人役		7,108 × 0.5 7,108 × 0.5		7,132 × 0.0 7,132 × 0.0		7,132 × 0.0 7,132 × 0.0							
				他の職員		千円 × 人役		× ×		× ×		× ×							
		<37> 実施計画・今後の方針		今後も新型コロナウイルス収束後、生徒が安全に渡航可能となり、県内他自治体の動向を注視し、慎重に事業を再開する。参加者負担金については、県内他自治体の状況等を踏まえ、1人約7万円負担から増額を検討する。						事業の計画		<38> 活動・成果目標		本事業に参加することで、将来小山市の国際交流に貢献できる人材となることを成果目標とする。					